大野藩校洋学館旧蔵書にみえる「白丸・黒丸」の
発見・確認・今後について

1980 年、適塾修復・史跡公園化のための展覧会「緒方洪庵と適塾」展が、大阪・福岡・岐阜・東京を会場として開催されました。これに合わせて発刊された旧版適塾図録『緒方洪庵と適塾』（適塾記念会編集発行 1980 年刊行・1993 年改訂）や適塾記念センターに保管される記録写真によれば、大野高校保管の蘭日辞書『和蘭字彙』(20 冊本) が展示され、表紙裏紙に「〇・●」が見えることが写真パネルで展示紹介されました。図録には「洋学館で用いられた「和蘭字彙」の表紙裏打ちに使われている会読記録で、適塾と同様に、〇印（討論の勝者）●印（敗者）をつけて得点表としたことがわかる」と解説されています。

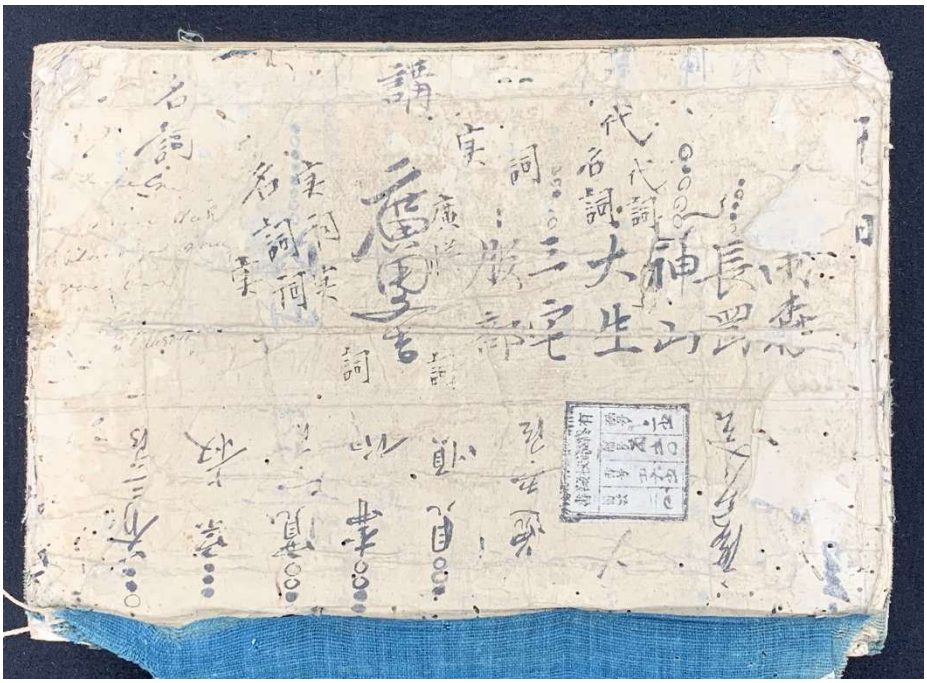
適塾記念会誌『適塾』№13（1981 年刊行）によれば、この展示に先立って同展覧会委員が大野高校および岩治勇一氏（故人、大野藩の蘭学を研究した郷土史家）を訪問しており、展覧会への資料の出展依頼に合わせて、種々の情報交換が行われたようです。

岩治氏から、大野藩校旧蔵書中に「〇・●」が存在するとの教示を得ていた大野市歴史博物館学芸員が、『三人の藤野先生、その生涯と交流 -医家に流れる適塾の精神-』（大阪大学総合学術博物館叢書 22、2025 年 3 月）への寄稿で示したところ、同書編著者である西川哲矢氏（大阪大学適塾記念センター特任助教（常勤））の注目を受けました。

2025 年 4 月（7 月に追加調査)、西川氏および松永和浩氏（同センター准教授）により、適塾門下生調査の一環として大野高校において調査が行われ、『和蘭字彙』(20 冊本) のうちの２冊の表紙裏紙に、複数の「〇・●」および人名を確認することができました。

この調査結果は、西川氏によって 2025 年度 適塾特別展示「シリーズ生誕 200 年記念～その肆　大村益次郎・伊藤慎蔵・箕作秋坪」において写真展示で公表さ

れ、続いて 2026 年 1 月に大野市歴史博物館において原史料の公開を行いました。



今回の調査では、1980 年の展覧会「緒方洪庵と適塾」で示された箇所が確認できておらず、継続して調査を行うことで、今後の更なる情報発見が期待できます。

※当解説は、西川氏から情報および教示を得て、当館学芸員がまとめました。
※名称・肩書などは当時のものです。